

### リポート③

#### 「ペンケース」かな??

デパ地下の文房具コーナーにも、文房具専門店にも、雑貨屋にも、必ず置いてあるのが、これです。男の子向けのデザインと女の子向けのデザインがありましたが、ここでは、女の子向けのデザインを紹介します。

一見すると、携帯できる工具箱か裁縫箱かという感じです。あるいは、お弁当箱にも見えました。

紫地に蝶のほうが290グラム、紺地に TENTUM シのほうが270グラム。どちらも、小さな蜜柑3つ分くらいの重さです。バックパック(日本なら、ランドセル)に入れても、散らばらないような工夫がされています。

ファースナーを開けて、広げてみると、時間割表が入られる仕切りがあり、本体には基本色の色鉛筆(8~9本)と色サインペン(7~10本)が固定されています。そのほかに、共通して、鉛筆削り、消しゴム、直定規も入っています。黒鉛筆は、1本入っています。

これは、間違いなく新入生用品です。おそらく、ペンケースなのでしょう。

ドイツの1年生は、文字を学習する時に、好きな色のえんぴつで書きます。絵を描くのと同じ感覚で、色を選ぶのです。日本の文字学習とは、大きく違います。



一見すると、工具箱か裁縫箱。

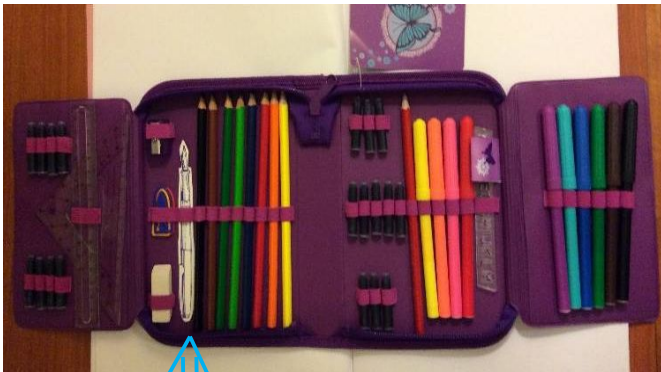


ファースナーを開けると、時間割表と.....

### レポート③

#### 「ペンケース」かな??

さらに、開けると、・・・・・・・・。



こちらは、クリップや三角定規も。



バックパックで通学します。

また、こういうセット品は、日本でも、一つひとつの品は、極上品というわけではないです。

ドイツのこれも、そういう感じがしました。直ぐ隣のコーナーには、子ども用の、極上の色鉛筆セットや黒鉛筆が、よりどりみどり並べてありましたから、比べれば、すぐにわかります。

だから、このセットを購入するのは、品を吟味している時間のない家庭なのかと思います。

価格は、5000円から4200円程度です。(ただし、テントウムシのほうは、赤札になっていて、半額以下で購入しました。)でも、日本の公立小学校の新入生用品と比べると、やや高いような気がします。

面白いのは、2年生になった時に、新たに購入する「万年筆」のスペースが空いていることです。⇒印のところがそれです。

紫地に蝶のほうは、なんと、万年筆のインクカートリッジが19本もセットされています。こういうのを見ると、文房具メーカーの下心が見えてきますね。

レポート④以降では、セット品でなく、単品で質を競っている子ども用文房具を紹介していきます。